

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉法人 希望の里		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	〒059-1265 苫小牧市字樽前159番地198 (電話) 0144-68-6231		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年3月30日

## 【情報提供票より】 (平成22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17人, 非常勤 1人, 常勤換算	17.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000~16,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 420 円
	夕食	440 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (2月19日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 85.4歳	最低 75歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧東病院 苫小牧緑ヶ丘病院 榊原歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は樽前山の裾野に位置し、公園、温泉などが近くにある自然豊かな環境である。利用者の時間を大切に、安心して生き生きと生活していけるよう、一人ひとりできることは自分でいき、困難な部分は支援している。話し合いの中で自己決定をできる機会を多く持ち、常に寄り添いながら、楽しく暮らすことを目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念については、地域密着型サービスとして全職員でつくりあげている。地域のつきあい、職員を育てることにしても、日々地域住民との交流や内部研修、外部研修に努力している。運営推進会議、同業者との交流については、今後さらなる取り組みを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>各スタッフと話し合い、指摘事項などの情報の共有化、気づきを大切にしながら改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町内会長、地域包括支援センター職員、家族代表者が構成員となり、今年度4回開催している。会議では、管理者が運営状況を報告し、出された要望をサービスの質の向上に取り入れている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに配慮して、その都度意見を聞き、意向に沿うことができるよう取り組み、法人全体の夏祭り、敬老会などの機会に活かしている。また、希望に応じ、電子メールや電話連絡等を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の盆踊りへの参加、散歩の際の地域住民との会話、野菜販売、トークショーなどの地域ボランティアの受け入れ、法人全体の夏祭り行事を通じて、地域交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの認知症状の程度に関わらず、利用者を受容し、温かく、ぬくもりのある生活の場所を提供する、住み慣れた苫小牧で健やかにぬくもりのある生活の場所を目指す、という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をネームプレートに刻印して、日々の生活支援の中で理念の実践に意識して取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の盆踊りへの参加、散歩の際の地域住民との会話、野菜販売、トークショーなどの地域ボランティアの受け入れ、法人全体の夏祭り行事を通じて、地域交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各スタッフと話し合い、指摘事項などの情報の共有化、気づきを大切にしながら、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会長、地域包括支援センター職員、家族代表者が構成員となり、今年度4回開催している。会議では、管理者が運営状況を報告し、出された要望をサービスの質の向上に取り入れている。	○	2ヶ月に1回の開催と構成員の幅広い人選に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市グループホーム連絡会に参加しており、市介護事業の研修や不明な事項などがある場合、その都度、電話連絡や実際に出向き連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回機関紙を発行して、利用者の日々の様子や健康状態、金銭管理の報告を行っている。希望に応じ、電子メールや電話で連絡し、家族等の来訪時には状況を報告し、相談に応じている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時等は話しやすい雰囲気づくりに配慮して、その都度意見等を聞き、意向に沿うことができるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職があった際は、同ユニットのスタッフで担当者の変更を行い、馴染みの関係を損わない体制づくりに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講し、サービス会議での伝達講習で研修の内容を共有したり、法人全体での勉強会等の取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し、研修や交流会を行っている。	○	他事業所とのネットワークづくりや相互訪問等を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が見学する際は、事業所説明を十分に行い、雰囲気を感じられるよう配慮をしながら、馴染める工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩だという意識を持ち、介護する人、される人という立場ではなく対等な関係の構築に努め、悩みや希望に沿う支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が望む生活を送れるよう、施設ケアアセスメントを通して、一人ひとりの考えや希望の把握に努めている。困難な場合は、家族に相談しながら情報の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえて、現状での状態を把握し、各スタッフ間で相談して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回サービス担当者会議で介護計画の見直しを行っている。また、利用者の心身に変化があった場合は、随時見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や温泉への外出支援、港祭りの見学、ユニット合同の敬老会、法人のマイクロバス利用でのバス遠足等、多機能を活かした支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診を行い、突発的な症状にも対応できるよう医療機関との連携を図っている。また、主治医へ相談しながら適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対する方針を家族に提示して、本人や家族が望む終末期を迎えられる支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個性を尊重した対応や声かけを行っている。また、第三者の目に届かないよう書類の保管場所を工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の希望やペースに合わせ、ゲームやパズル、畑作業、好きな話等、状況に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを作成している。また、一人ひとりの力に合わせた準備等の手伝いなど、介助の必要な利用者に対しても、持っている力を引き出す配慮をしている。利用者の嗜好の調査を絵を使いながら取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、日程や時間を指定して、入浴を行っている。希望により入浴が少ない場合は、身体清拭や足浴対応、近くの温泉入浴等の支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力やニーズを考慮し、声かけをしながら、洗濯たたみや食事の盛り付け、雪はね等の役割の支援をしている。また、余暇には、これまでの生活歴や趣味などを聞きながら写真貼り、手芸、パズル、手紙を書く等の楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている利用者がおり、安全に配慮しながら、公園まで出かけることもある。外気浴や雪はね等、外に出るよう声かけをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠も場合によっては身体拘束につながることは意識している。しかし、防犯上の事由で、夜8時～朝7時までは玄関の施錠を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時や災害時には非常召集できるよう連絡網を整備して、年2回避難訓練を実施している。	○	近隣施設や町内会を含めた夜間対応等の災害対策を期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別ケアを行い、法人栄養士が献立を作成している。カロリーや食事摂取量、水分量を記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小上がりに雛壇を皆で飾り付け季節感を採り入れている。温度、湿度管理に注意しながら、壁には手作りの品々や花などを飾り、居心地よく過ごせるような工夫ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、利用者の馴染みの家具、写真などを持ち込み、本人が安心して過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。